

の土を七所にて取、各等分となし、先に云ごとく砂に合して、橘の實を丸ゆべし、かならず化樹となりてはゆるなり、尤土は城州八幡の土を最上とす、八幡ばけの生し傳なり、
但し人家の廻りの土とは、あるひは門口千載など、家舗の廻りにて陰地の土を取べし、又人煙遠きところとは、里はなれ家屋舗なきところなり、是も陰地をゑらびて取べし、田畠など糞けある土を取べからず、大にきらふ、これ大に秘事なり、

硃砂根

〔草木六部耕種法〕^{十一}百兩金ハ大抵鉢植ニノミスル者ナリ、假令ヒ花壇ニ作ルトモ、草能ク繁生スル野土山土ヲ探テ篩^フニテ能透シ、此細末ニシタル土十荷ニ、干鰯粉^{ホシカ}五升、油糟粉^コ五升ヲ能ク調合シテ植ベシ、最モ陰地ヲ良トス、其植タル上ニ日覆ヲ設テ、夜ハ此ヲ除テ露ヲ受シメ、小雨ノ當ルモ苦シカラズ、然レドモ濕過^シルトキハ、根ノ腐ル者ナリ、夏ノ間ハ刷毛カ筆ヲ以テ、隔日ニ水ニテ葉ノ表裏ヲ能ク洗フベシ、然セザレバ微細ナル蟲ヲ生ジテ、葉ノ落ル事多シ、凡ソ百兩金ノ實ヲ蒔ニハ、三月頃ニ探テ直ニ蒔キ、淺ク植テ實見ユルヲ良トス、既ニ生タルヲ實生モ故木モ、四月ニハ土ヲ替テ移シ植ベシ、如スルトキハ能肥リテ勢壯ニナル者ナリ、接木スルニモ四月頃ニ接ベシ、凡ソ百兩金ハ實ニハ赤淡赤、黄、白、紫等アリ、葉ニモ多羅葉^{タラ}、鳳凰^{ホウリウ}、縮緬^{シュメン}、繻子^ヌ、雀葉^{サバ}、橘葉^{ハツガ}、鶴岡斑^{カク}、紋幅^マ、輪間道^{リンシマ}、白星^{シラボシ}等アリ、下品ナルヲ切テ砧^{ダイ}トナシ、珍奇ナルヲ接木スベシ、又別ニ木立百兩金ト云フ者アリ、高サ五六尺ニ及ビ枝多ク、其葉ハ血楯^{アカイカシ}ノ如クニシテ厚大ニ、花實モ珠砂根ニ似テ大ナリ、此亦裁覽スベキノ一物ナリ、

〔多識編〕^二硃砂根 綱目 今案阿加岐、

〔重修本草綱目〕^八啓蒙山草 硃砂根、マ、ン、リ、ヨ、

花家ニ多クアリ、高サ二尺以來、葉ハ百兩金ニ似テ短ク、邊ニ尖ラザル鋸齒アリ、葉ハ莖端ニ叢リ互生シテ傘ノ如シ、數百ノ圓實枝ヲ分テ葉下ニ倒垂ス、冬春紅熟シテ觀ニ堪タリ、又黃實白實、其